日田祇園山鉾巡行予定図

平成26年7月26日(土)27日(日)

豆田地区

※豆田地区は、夜間(午後6時～午後10時)車輌進入禁止になります。

晩山 豆田地区4町山鉾時間
26日 午後8時頃 御幸橋(口上)
27日 午後8時30分頃 一新橋(囃子)

駆け上がり
27日 午後7時頃 一新橋(上町側)

中城お旅所
26日 午前11時頃
27日 午前10時頃
午後7時頃

咸宜園前
26日 午後2時50分頃

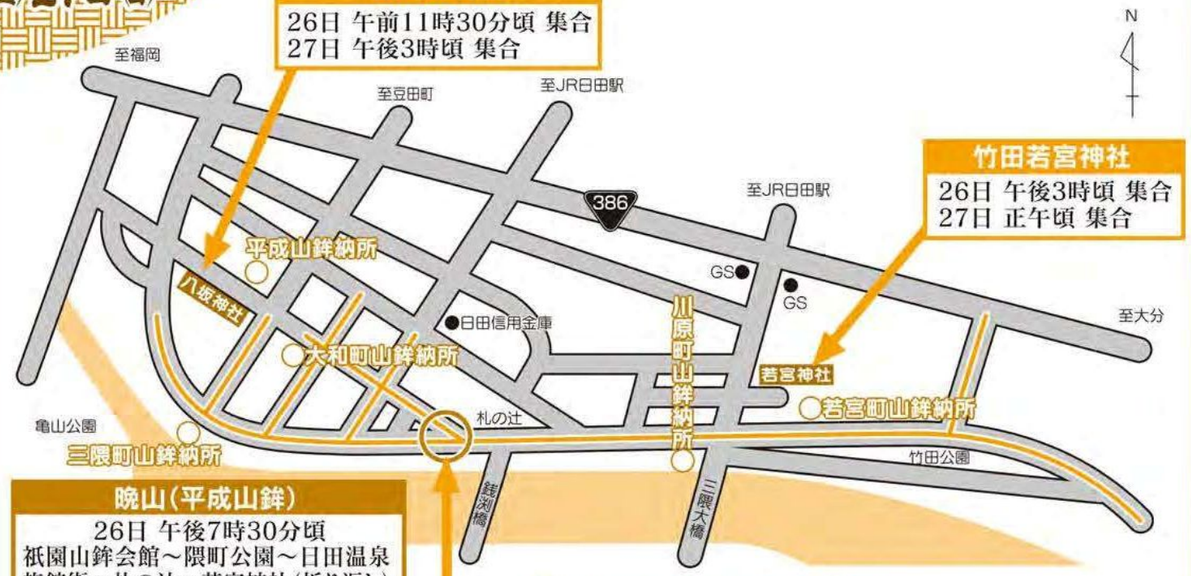
豆田八阪神社前
26日 午前10時頃
27日 午前11時30分頃

日田信用金庫
26日 午後8時50分頃 集合

市営駐車場
26日 午後9時頃 集合

隈・竹田地区

隈八坂神社
26日 午前11時30分頃 集合
27日 午後3時頃 集合



竹田若宮神社
26日 午後3時頃 集合
27日 正午頃 集合

晩山(平成山鉾)
26日 午後7時30分頃
祇園山鉾会館～隈町公園～日田温泉旅館街～札の辻～若宮神社(折り返し)～札の辻～黎明館～祇園山鉾会館
※黎明館前でパイパイを300本配布します。

晩山(隈・竹田地区4町山鉾)
27日 午後8時頃 札の辻

【豆田の起こり】

江戸時代の慶長6年(1601年)に、小川壱岐守光氏が丸山城と称して月隈山(現・月隈公園)に築城した際に、城の東側に十二町村から商家を移して町が開かれました。元和2年(1616年)には譜代の石川主殿忠総が丸山城を改築して永山城と改め、城下の武家屋敷を花月川の対岸まで拡大し、豆田町としました。

その後、幕府の天領となり代官所が置かれ、昇格し西国筋郡代役所になり、九州の政治、金融の中心として栄えました。また、幕末には廣瀬淡窓が咸宜園を開き、全国から塾生が集まってきました。

【隈の起こり】

文禄3年(1594年)に、豊後日田・玖珠2万石の蔵入地代官を務めた豊臣秀吉配下の、宮木豊盛(長次郎)が日隈山(現在の亀山公園)に城を築き、その対岸に開いた城下町が起源です。

慶長元年(1596年)には、後に豊後佐伯藩の初代藩主となる毛利高政によって、現在の町割りの原型が作られたと言われています。当時は、現在の中本町、隈1・2丁目を二重の堀と土塁で囲み、要所に木戸門を設けて朝夕に開閉していたと言われています。

港　町

港町の山鉾は、町並みに合わせた山鉾で、運行距離も長く、町内各所をくまなく回ります。

平成22年に新調した「見送り」と「水引幕」は必見です。

見送り『牡丹に唐獅子』
平成22年(2010年)復元新調

豆田下町

豆田下町の山鉾は、横幅、車輪の直径が市内最大級の大きさで、重厚感のある造りが特徴です。

見送り『虎』
安政2年(1855年)制作

三　隈　町

三隈町の山鉾は、平成19年に新調されたもので、全体のバランスを重要視した、美しいシルエットが特徴です。

見送り『龍』
昭和60年(1985年)制作

大　和　町

大和町の山鉾は、100年もの間活躍した山鉾が平成22年に勇退し、平成23年新調されました。

高さ10mの新しい山鉾を是非ご覧ください。

見送り『麒麟』
明治2年(1869年)補修

中　城　町

中城町の山鉾は、電線の高さ等の状況に応じて、高さを最大8mにまで伸ばせる仕組みが特徴です。

見送り『玄武』
嘉永2年(1849年)制作

豆田上町

江戸期の八幡町、平野町、室町が合併し上町になり、明治23年製の山鉾台車を使っていました。今年、地元の山鉾絵図を基に、124年ぶりに大きな山鉾を復元新調しました。

見送り『鷲』
明治21年(1888年)制作

川　原　町

川原町の山鉾は、平成24年水引幕を120年ぶりに新調しました。睨みあった龍と虎が勇壮で躍動感ある姿に刺繍されており、豪華絢爛に仕上がっています。

見送り『素盞嗚尊大蛇退治』
平成8年(1996年)制作

若　宮　町

若宮町の山鉾は、昭和12年に一端途絶えましたが、昭和54年に復活し、平成25年に新調されました。見送りの獅子に負けない迫力の巡行をご覧ください。

見送り『唐獅子』
昭和58年(1984年)制作